

霊場めぐり

八日市場を歩く

も考えられます。1930（昭和5）年には、匠瑳十善海徳講社主催で400人ほどが列車を仕立て、霊場めぐりを実施したことが報じられています。

福善寺境内には霊場めぐりの旗（＝写真上）も立てられています。

今年（平成26年）は「四国霊場八十八ヶ所開創1200年」の記念の年に当たります。昨年4月号で「お大師まいり」を掲載しましたが、今年の結願寺となる八日市場・福善寺本堂の裏山にある「新四国八十八ヶ所霊場」を紹介します。

福善寺の講社・海徳講は1905（明治38）年の結成とされますが、境内の霊場めぐりがきっかけだったとも考えられます。

千葉県内の明治20年代の社寺や資産家、学校など200点余りを銅板画で描いた『千葉県博覧図』の中に「福善寺境内絵図」があります。そこ

に記された「略縁起」によると、明治11年に住職と信徒9人が四国遍路と金刀比羅宮（香川県仲多度郡琴平町）を参拝した際、四国霊場の砂を持ち帰り、砂をまいて石塔をまつたとされています。

石塔は高さ60cmほどで、山門近くの「第一番霊場」から裏山中腹の「第八十八番霊場」までめぐるように立てられています。石塔の正面には、弘法大師像が浮き彫りされ、各霊場の寺院名と本尊名、ご詠歌が、左右側面には「春海村講社中」のように寄進した講社名や願主の個人名、世話人名が1基ごとに刻まれています。

本堂の左に1853年の「八十八ヶ所巡拝供養塔」がまつられ、ほぼ同時期のものと見られる「四国八十八ヶ所霊場供養塔」が匠瑳地区山桑の医光院境内にあります。両寺の関係からとは福善寺にまつられていたと



3月号「新田の碑（飯倉新田を歩く）」で配慮が足らず関係者の皆様に不快な思いをさせてしまいましたことを深くお詫び申し上げます。3月2日に飯倉新田地区の皆様のご尽力で石碑（＝写真下）が修復されました。地域の歩みを伝える碑をめぐってみませんか。

（元 市職員・依知川雅一）

問 秘書課広報広聴班

☎ 73・0080

